

# 産業の空洞化とプロパテント政策

リガテック特許商標事務所 北岡 敬三

## 1. はじめに

皆さんご承知のように、日本は科学技術創造立国であり、今後もこの立場を維持しなければならないでしょう。しかし、日本の立場は現在次のような状態にあり、端的には次の言葉で表せるでしょう。

第1には「産業の空洞化」と第2には「技術の空洞化」の現実、そして第3には「プロパテント（特許重視）の政策」の採用であり、これらのテーマは図1に示すように相互に関連しています。

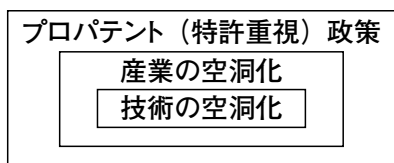


図1

## 2. 第1の「産業の空洞化」

「産業の空洞化」とは、国内産業が海外へ転出し、あるいは中国や東南アジアでの生産活動が活発化することにより、生産された商品が安価に日本へ逆輸入されることで、国内工場の開發生産活動が空洞化することです。

皆さんが日常感じられているように、例えば電機産業や衣料製造産業等で生産された商品は、すでに日本へ安価に逆輸入されていますが、近い時期に、

日本の最も大きな基幹産業である自動車産業と建設産業の中核が海外に転出する可能性があります。

## 3. 第2の「技術の空洞化」

「技術の空洞化」とは、産業の空洞化に伴い、あるいは生産品の価格低下に伴い、従来の高度な技術、技能が廃れてしまうことであります。

例えば腕時計は低価格化の影響を受けて、生涯愛用できる腕時計の高度な組み立て分解技術を行える技能者が減少しています。

## 4. 第3の「プロパテント（特許重視）の政策」

「プロパテント（特許重視）の政策」とは、例えば技術的進歩を図って経済の基盤を立て直すか、あるいは強化するために、知的所有権の保護を積極的に行うという政策であり、アメリカや日本等が重視しています。日本の企業は、大小にかかわらず自社の技術に関して特許を出願して特許収入を得ようとしていますし、日本の大学では、大学の技術について特許を取得して、その特許収入を大学に還元させるシステムを構築しようとしています。ただプロパテントを重視すると、大変なコストが現在から将来にわたってかかります。プロパテント政策のもとで日本の科学技術創造立国を維持していくためには、大きな発想の転換を行い、次のような考え方が必要かもしれません。

産業および技術の空洞化を排除し、国内の雇用の

確保を行い、海外では達成できない高度な技術と技能の維持発展を図り、しかも特許収入を得るためには、海外では到底真似のできない発想を実現することが重要です。例をあげれば、これまであまり考慮されなかった製品の時間軸の拡張です。

(1) 具体的に例をいえば、20年間品質の保障された自動車の発売です。この例では、定期的あるいは不定期的に有料点検を行う前提で、非常に優れたデザインと機能を有する自動車を設計して、自動車の大量販売を少しずつなくしていくのです。この種の自動車の販売価格は、従来の大量生産販売方式の自動車に比べてかなり高価になりますが、この種のサポートをするための支援産業が発達し、この種の自動車の各構成部品の品質は格段にあがります。

(2) 別の例をあげれば、使用者が生涯使用できる

生涯時計を生産することで、その生涯時計は時計メーカーが有料で数十年の間修理し、分解掃除をしてサポートするのです。

## 5. おわりに

これらの例では、企業が、1人の顧客について長期間にわたってかかわり、工業製品が大量生産品であるとの決まった認識から発想の転換をして、海外の製品とは違って長期間高付加価値を有するようにします。この観点から次世代の技術者や技能者を育てるために、従来の常識にとらわれずに、学校教育制度、企業内教育制度、そして資格制度を変えていく必要があります。